

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.13

ダンディライオン タンポポ

えっ、今頃春の植物「タンポポ」ですか？そう思ったあなたは、この植物の底力、実力を見くびっています！
 そうです、「タンポポ」は、もはや、「春」だけの植物ではなくなっているのです。そうざっくりと言ってみましたが、細かく言えば、「西洋タンポポ」は1年中見られる、が正解です。さて、ここで問題です！「日本たんぽぽ」と「西洋タンポポ」の見分け方は？正解は、「花の下の緑の部分」が「反り返っていないものが『日本たんぽぽ』」、「反り返っているものが『西洋タンポポ』」です。
 そんなこと、知ってるよ！そうですね、これは初級編でした。



では、この「タンポポ」合戦の顛末はご存じですか？一見、「日本たんぽぽ」は、外来種である「西洋タンポポ」にその地位を奪われ、絶滅の危機に瀕している「気の毒な種」と思われがちです。ところがどっこい、「日本たんぽぽ」には、「日本たんぽぽ」なりのしたたかで、堅実な生き残り戦略があるのです。さて、皆さん、「タンポポ」って、どこに咲いていますか？もちろん、草原にも咲いていますが、案外、アスファルトの割れ目などの過酷な場所にも咲いていますよね。そんな場所にも咲く、それが「西洋タンポポ」。なぜ、「西洋タンポポ」は、そんな場所に咲くのでしょうか？サバイバルが好きだから！いいえ、彼らだって、本当は楽な場所に咲きたいのです。でも、そんないい環境は、他の植物や、そもそもの「日本たんぽぽ」が占領しているのです。えっ！「日本たんぽぽ」って強いんですか？残念ながら、繁殖力では「西洋タンポポ」には到底かないませんが、「日本たんぽぽ」は、いぶし銀（どんな「銀」だろう？どんな使われ方をするのだろうか？調べてみてね！）の職人氣質（なんて読みますか？正解は、「しょくにんかたぎ」です。）で、きっちり、自分のテリトリーを守り、仕事＝繁殖を成し遂げています。「日本たんぽぽ」は、花粉のやり取りをして繁殖する「種」です。ですから、同じ「日本たんぽぽ」で群生する必要があります。そして、他のDNAも取り入れながら、丈夫で大きめな種を作り、「春」の一番いい時期に生育し、繁殖します。そして、大切なことですが、「日本たんぽぽ」は、それで満足なのです。

それに対して、「西洋タンポポ」は、それ単体でも種を作ることができます。いわば、クローン（以前、「さくら」の「ソメイヨシノ」で扱いましたね！）です。繁殖力は抜群ですが、「種」は小さく、芽生える際には不利です。だから、他の植物が選ばないような不利益な場所に、咲くことになるのです。1年中咲いているのは、そうでもしなければ、やっていけないからかもしれません。つまり、「日本たんぽぽ」は、負けたのではなく、無駄な争いをせず、最初から違う次元で「我が道」を行く戦略に従い、実に効率よく、日本の風土に適した繁殖をしているのです。余談ですが、「タンポポ」の茎や葉から出る白い汁の正体は、「液状のゴム」だそうです。これで、自分をかじる虫の「口を封じる」（本当に、文字通り！）たくましい植物です。